

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-1-1 県内企業の経営・技術革新の支援
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	港湾空港課長 奥村 恭	電話番号	0852-22-5228
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	ポートセールス事業
目的	(1) 対象 浜田港の利用企業及び利用の見込まれる企業 (2) 意図 国内外の市場獲得に向けて、国際貿易港浜田港の取扱貨物量の増加を図る。
事業概要	浜田港の利用を促進するため、利用企業及び利用の見込まれる企業に対して、商工労働部などと連携して宣伝活動を行う。

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		2,500	2,600	2,700	
式・定義	韓国定期コンテナ航路の取扱貨物量	実績値	2,292	2,199	2,869	3,412		TEU
		達成率		88.00	110.30	126.40		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	401	401
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 韓国航路コンテナ取扱本数は、3412TEUで対前年度比119%
- 輸出額については、対前年比95%（主力貨物であるロシア向け中古車の輸出額は対前年比79%）
- 輸入額については、対前年比132%（主力貨物である原木の輸入額は対前年比93%）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 輸出については、年々増加しており、丸太の輸出が好調で、また台湾・韓国向けバルブの増加等により、1665TEU（対前年度比142%）となった。
- 輸入については、福井上屋の利用によりポリ原料・シリコニウム等が増加し、1749TEU（対前年度比103%）となった。また、H27年2月に新たな貨物としてハイオマズ発電燃料の椰子ガラが輸入された。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- コンテナ貨物の取扱量は増加しているが、ロシア向け中古車輸出、原木輸入は減少傾向。

②困っている状況が発生している「原因」

- ルーブル安によるロシア経済の不安定化やロシアの中古車需要の減少。
- 合板材料を外国産材からコストの安価な国産材にシフトする傾向。

③原因を解消するための「課題」

- 中古車に代わる対ロシアの新規貨物の掘り起こし。
- 北海道、東北、九州等からの国産材の輸送をトラックから内航船にシフト。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- H25年度開設した浜田港湾振興センターを中心に、浜田港振興会や浜田市にH26年度新設された広島市場開拓室などと連携して、ポートセールスを強化する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）